

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：衛生費 項：環境管理費 目：公害対策費

事業名 酸性雨モニタリング調査事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部 環境管理課 大気環境係 電話番号：058-272-1111(内 2832)

E-mail： c11264@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,626 千円 (前年度予算額：9,814 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	9,814	9,813	0	0	0	0	1	0	0
要求額	8,626	8,625	0	0	0	0	1	0	0
決定額	8,626	8,625	0	0	0	0	1	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

環境省からの委託により、酸性雨による環境への影響を早期に把握するため調査を実施する。

(2) 事業内容

① 国設酸性雨測定所管理運営

酸性雨原因物質の長距離輸送の機構解明、酸性雨による生体影響の監視等の目的で設置された国設伊自良湖酸性雨測定所において、酸性沈着物等の調査を実施する。

調査地点：山県市長滝

調査項目：湿性沈着物、乾性沈着物、気象項目

② 酸性雨モニタリング (陸水) 調査

酸性雨による中長期の影響を把握するため、伊自良湖の水質の分析等を行う。

調査地点：山県市長滝

調査項目：水質調査、底質調査 (5年に1回、令和7年度に実施予定)

③ 酸性雨モニタリング (土壌・植生) 調査

酸性雨による生態系への影響を把握するため、森林植生モニタリング及び土壌調査を実施する。

調査地点：山県市長滝、郡上市大和町古道

調査項目：森林植生モニタリング、土壌調査（5年に1回、令和8年度に実施予定）

（3）県負担・補助率の考え方

国 10/10（環境省委託事業）

（4）類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報酬	472	会計年度任用職員の報酬
職員手当	88	会計年度任用職員の期末手当
共済費	87	会計年度任用職員の各種保険料(国設、陸水、土壌・植生)
旅費	114	環境省会議等業務旅費、会計年度任用職員の旅費
需用費	3,272	分析等消耗品費、公用車燃料費、測定局光熱水費、写真印刷費
役務費	12	電話代、郵送代
委託料	3,024	機器保守委託費、国設酸性雨測定所維持管理委託
使用料	1,557	イオンクロマトグラフリース料、採水ボート借り上げ
合計	8,626	

決定額の考え方

4 参考事項

（1）国・他県の状況

平成12年度から環境省の委託を受け調査を実施している。

（2）後年度の財政負担

平成29年度からモニタリング調査に必要な機器（イオンクロマトグラフ）の複数年リース契約（6年間）を行っていることから、令和4年度までリース料が必要となる。また、5年に1回、森林総合調査及び土壌モニタリング調査を行うため、追加経費が必要となる。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 酸性雨、陸水、土壌及び植生のモニタリングを実施し、酸性雨の影響の早期把握を目的とする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2 年度 実績	R3 年度 目標	R4 年度 目標	終期目標 (R)	達成率
						%
①						%

○指標を設定することができない場合の理由

環境省が実施主体であり、県で指標を設定するのは適当でない。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 測定したモニタリングデータを環境省に報告した。
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 <hr/> 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 <hr/> 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 2	環境省の委託により、酸性雨による環境への影響を早期に把握するための調査は必要であり、県の関与は妥当である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	環境への影響の早期把握のため、毎年度のモニタリングデータを環境省に報告しており、5年ごとに環境省が取りまとめている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 1	専門知識を有する保健環境研究所及び森林研究所が、試料採取・分析及び報告書の作成等を行っている。

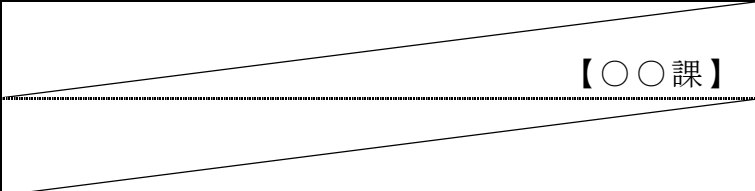
(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 酸性雨の環境への影響を把握するには、長期的な観測が必要である。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 環境省からの委託により、酸性雨による環境への影響を早期に把握するため、長期的な観測を今後も実施していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課 組み合わせる理由や期待する効果 など	
	【〇〇課】